若手社員の１日

管清工業

大阪支店 公共事業部 営業課　**大久 日菜さん**

社会生活の基盤を支えるプライド

コロナ禍でもインフラを支える

余暇に趣味のギターを楽しむ

■下水道管の維持管理

私たちの生活に欠かせないインフラ、下水道。管清工業は、下水道管内の清掃・調査・補修といったメンテナンス業務を手掛ける会社で、下水道のほかにも宅内の給排水設備や鉄道関係施設も担い、快適な日常生活を支えている。

入社2年目の大久さんは、公共事業部営業課に所属。主に地方公共団体の下水道担当部署を対象に、下水道の維持管理業務に関することや自社で開発した新技術の営業を行っている。「いつもほとんど外に出ています」と笑うように、朝礼を終えると早速社用車で出かけ、夕方まで営業回り。一日で4～5件ほど客先を回るのだという。

この1年の感想は「入社早々に1カ月間の自宅待機となるなど大変なこともありましたが、毎日新しい経験の連続で、充実していました」。これまでは先輩に同行しての営業回りだったが、7月からは晴れて「独り立ち」となり、担当顧客も受け持つ。「とにかく『やるしかない』という気持ちです」と前のめりの姿勢だ。

■社会貢献への思い

入社のきっかけは「男女関係なく活躍したい」の一心だった。就活を進めていくうちに「社会に貢献できる仕事がしたい」との気持ちも芽生えてきた中で、合同説明会場で管清工業に出会い、下水道を陰ながら支える仕事内容に惹かれ、入社を決めた。

営業活動を行う一方で、研修の一環で作業服を着て現場業務に当たったこともある。作業現場を見かけた市民から「ご苦労さま」と声をかけられたのが印象に残っている。「目立たない私たちの仕事に

安心して働ける制度面に信頼

■安心して働ける環境

休日は週休2日制。現場は業務の都合で土曜日出勤になることもあるが、その場合は必ず翌週に代休を取得することが決まっているという。余暇は趣味の弾き語りを楽しむ。ギターは高校時代から始め、軽音サークルではギターボーカルを担当していた。時には友人と一緒に公園などで合奏し、気分を入れ替える。

女性が安心して働ける環境も大きな魅力だ。近年は、現場作業の担当部署にも女性社員が増えてきているほか、中には3人の子どもを出産した後に職場復帰した社員もいるそうだ。産休や時短勤務などの各種制度も整っており、また実際に制度が利用されていることに、働く側として強い安心感がある。「社会貢献ができるというやりがいと、安心して働くことができる環境があることが会社の強みです」と力強く語ってくれた。

■生活支えるプライド

現場業務を担うため、コロナ禍でも事務系部署を除き基本的に全員出社だというが、感染対策には常に気を配っている。ちなみに、大久さんの昨年の自宅待機期間は、「下水道管路技術認定試験の勉強をしていました」。管清工業では、現場業務を担う部署以外でも総務・営業など問わずほぼ全社員が同資格を保有しているそうだ。「下水道という社会インフラを直接支える会社の一員として、営業や事務も含めた全員が社会貢献の意志を持っています」と、まっすぐな目で代弁する。

学生たちへのメッセージは「就職活動は、入ってみないとわからない世界がほとんどだと思います」。先が見えない世相で、下水道という新しい世界に飛び込んだ大久さん自身の経験から出る正直な言葉だ。「毎日新しい経験をしながら、一緒に社会貢献をできたらいいと思います」。

人々の生活を支えるプライドを持って、日夜仕事に励んでいる。

1日のスケジュール

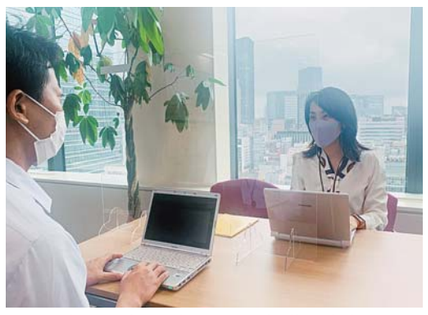
8:00	始業　メールチェックと返信
8:30	朝礼
9:00	営業訪問 社用車で外出し、2～3件客先回り
12:00	昼休み
13:00	午後の業務開始 引き続き客先回り 一日でおよそ4～5件の客先を訪問する
16:30	帰社 見積書作成、書類作成など事務作業を行う
17:30	終業

クボタ

水環境事業本部 水環境ソリューション開発部 営業課　**小西 ちぐささん**

最適なソリューション提案へ

インフラを通じて社会に貢献



多くの打ち合わせや会議に参加

クボタで製造できる最大口径（φ2600㎜）の鉄管と

扱う、クボタとしては革新的な部署だ。

背景には、自治体の発注方式がDB（設計・施工）、DBO（設計・施工・運転管理）といった複数業務を包括する方向にシフトし、20年以上にわたる長期案件も増えてきたという市場の変化がある。新しい技術やノウハウを織り込んだ提案を求められ、価格とアイデアの総合評価で落札者を決めるプロポーザル方式も多用されるようになった。その結果、各社の長所を生かすJV（共同企業体）を組む機会も増えている。

広範な製品・サービスをワンストップで提供する新部署には、こうした大型案件のプロジェクトマネージャー的な役割を果たし、いちメーカーから水総合インフラ企業への進化をけん引していくことが期待されている。かつては鉄管の魅力のPRに集中していた小西さんも、クボタグループの各部署、JVの他企業を含めた全体を俯瞰し、最適なソリューションを導き出すことが仕事となった。

そこに直結するのが、未来のあるべき姿から今なすべきことを逆算する〝バックキャスティング〟の考え方だという。「まずは自社、次に他社、そして地域の持つ可能性をそれぞれ理解し、さらにパートナーシップで生まれるポテンシャルを洗い出した上で、必要な行動を取っていく。これが自分から提案できれば、今の仕事がもっと面白くなっていくと思うんです」と目を輝かせる。

■無限に広がるフィールド

クボタの魅力は、食料・水・環境の三つの輪で世界中の人々の生活を支えられることである。ブランドステートメントの〝For Earth, For Life〟が示すように、地球上の人々の幸せな生活を支える事業を展開していることが社員の誇りとなっている。

福島県双葉町の放射性廃棄物の減容化プロジェクトなど、「こんなところにも」と驚くような社会課題解決に取り組むクボタの事業は数えきれない。製品や分野にとらわれないソリューション提供を強化していくことで、クボタグループの底力を発揮できるフィールドはさらに広がっていく。「インフラを通じてより多くの人々に貢献したい」という目標に向けて、小西さんは着実に歩んでいる。

1日のスケジュール〈出社の場合〉

8:30	メールチェック、業務内容の確認
9:30	オンライン朝礼
10:30	社内共有会議（進捗を他部門に報告）
12:00	昼休み
13:30	外出（他社との合流会議）
15:00	会社に戻り会議議事録作成 課題について整理、分析、情報収集
18:00	終業